

科目名		専攻ゼミⅠ（設計）（必修選択）						
科目名(英)								
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	古賀 俊光	
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目		
対象学科・学年		建築学科2年						
授業概要		各年代の代表的な建築物の分析・考察を通して、自分なりの設計プロセスを組み立て、プレゼンテーションできる力を養う。※パワーポイントを用いる						
授業形式		講義：△	演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○					調査を元に問題点、課題点の把握できる		
	○					計画立案からの設計プロセスの流れまで一通り理解できる		
	○					各年代の建築物の特徴、課題点を分析することができる		
	○	○				組み立てた建築設計のプレゼンテーションができる		
テキスト・教材 参考図書		オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	第1課題(店舗付き住宅)課題説明				前回授業内容の復習と、未完の作業がある場合は 次回までに作業を終えておくこと		
	2	現地調査						
	3	実例資料集め(各年代のデザイン手法・材料・寸法)						
	4	実例資料集め(各年代のデザイン手法・材料・寸法)および分析						
	5	コンセプトの策定						
	6							
	7	第1プランのゾーニング						
	8	第1プランのエスキース						
	9	第1プランの講評・作り直し(手直し)						
	10	第2プランのゾーニング						
	11	第2プランのエスキース						
	12							
	13	第2プランの講評・作り直し(手直し)						
	14	図面作成(平面図)						
	15	図面作成(立面図・断面図)						
	16	模型製作						
	17	模型製作						
	18	プレゼンテーション資料作成						
	19							
	20	発表・講評						
	21	第2課題(事務所協会設計競技)課題説明						
	22	実例資料集め(各年代のデザイン手法・材料・寸法)						
	23	実例資料集め(各年代のデザイン手法・材料・寸法)および分析						
	24	コンセプトの策定						
	25							
	26	第1プランのゾーニング						
	27	第1プランのエスキース						
	28							
	29	プランの修正・手直し						
	30	発表・講評						
評価方法	出席率及び提出作品(期限、完成度)に加え、ディスカッション時の積極性(発言回数、意見内容の整合性)により評価する。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	提出作品		○				80%	
	発表・ディスカッション		○		○		20%	
履修上の注意		出席率60%が単位付与の条件						

科目名		建築計画Ⅳ									
科目名(英)		Architectural Planning Ⅳ									
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	赤星 亜美				
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○				
対象学科・学年		建築学科 2年									
授業概要		建築計画とは何かを説明できる 既存の建築計画を調査・研究している これからの社会情勢に応じた建築計画を模索する意志を有する。									
授業形式		講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○			○		既存の建築計画の調査、研究が出来る					
	○			○		事務所ビルの理解ができ計画が出来る					
	○			○		音楽ホール、劇場の理解が出来計画が出来る					
	○			○		百貨店、スーパーマーケットの理解が出来、計画が出来る					
	○			○		宿泊施設、駐車場の理解が出来、計画が出来る					
テキスト・教材 参考図書		テキスト：初学者の建築講座 建築計画(改訂版) 参考図書：カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代、コンパクト建築設計資料集成、ホテル・旅館 市ヶ谷出版、「新建築」等の建築雑誌 その他									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	ガイダンス 6-1規模計画と経済効率					予習・復習することを心がける。				
	2	6-2事務所ビル 事務所ビルの変遷					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。				
	3	6-2事務所ビル 事務所ビルの計画					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。				
	4	6-2事務所ビル 各室計画					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。				
	5	6-3劇場・音楽ホールの変遷					前回までの授業内容に係る確認テストを実施するの で、復習しておくこと。				
	6	6-3劇場・音楽ホールの計画					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。				
	7	6-3劇場・音楽ホール 客席・舞台の計画					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。				
	8	6-4百貨店・スーパーマーケットの変遷					前回までの授業内容に係る確認テストを実施するの で、復習しておくこと。				
	9	6-4百貨店・スーパーマーケット 大規模小売店舗の計画					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。				
	10	6-4百貨店・スーパーマーケット 売り場の計画・駐車場					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。				
	11	6-5 宿泊施設 定義・種類・分類・機能・基本条件					前回までの授業内容に係る確認テストを実施するの で、復習しておくこと。				
	12	6-5 宿泊施設 構成要素・部門・所要室・規模					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。				
	13	6-5 宿泊施設 ゾーニング・動線計画宿泊施設					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。				
	14	6-5 宿泊施設 6-6 駐車場					予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を 実際に見学することを推奨する。				
	15	総括 I					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習し ておくこと				
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	○					80%				
	小テスト	○			○		10%				
	宿題・レポート	○			○		10%				
履修上の注意											

科目名	建築環境工学						
科目名(英)	Architectural Environmental Engineering						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	竹田真志
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	建築学科 2年						
授業概要	望ましい室内環境を形成するための物理的・生理的・心理的な知見を整理・統合し、建築計画に役立て、二級建築試験における学科Ⅱ(環境工学)の問題に対応出来るようになる						
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)に関連する各図を読み解くことができる	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)の特徴と留意事項について説明できる	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)に関して計算式を用いて必要な数値を算出することができる	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)の課題点と対策について述べる ことができる	
テキスト・教材 参考図書	建築環境工学 市ヶ谷出版 オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	建築環境工学の役割					
	2	太陽位置と日照・日影の関係				教科書予習する	
	3	日影曲線・日影時間				教科書予習する	
	4	日射量・日射調節				教科書予習する	
	5	光環境・測光量・照度計算				教科書予習する	
	6	明視条件・採光				教科書予習する	
	7	採光による照度計算・採光計画				教科書予習する	
	8	人工照明・照度計算(光束法)				教科書予習する	
	9	色彩の表し方・表色法				教科書予習する	
	10	色彩の効果・色彩計画				教科書予習する	
	11	室内空気汚染物質と許容濃度				教科書予習する	
	12	各汚染物質に伴う必要換気量の計算				教科書予習する	
	13	自然換気の種類と風力換気の計算				教科書予習する	
	14	自然換気・温度差換気の計算・通風				教科書予習する	
	15	機械換気方式・換気計画				期末試験のため今までの振り返りをする。	
評価方法	期末試験結果と授業内での理解度確認テストの結果による。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	小テスト	○	○				10%
	宿題・レポート	○	○				10%
履修上の注意	出席率60%が単位付与条件とする。						

科目名	建築設備									
科目名(英)	Building Facilities									
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		力安 拓	
実施年度	2019年度		実施時期		前期		実務家教員 担当科目		○	
対象学科・学年	建築学科 2年									
授業概要	建築に関する基礎的で包括的な専門知識として、また、建築環境・設備分野での技術者として必要な設備計画に関する基礎知識を修得する。									
授業形式	講義： ○		演習： -		実習： -		実技： -		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				建築設備の役割・種類・構成を説明できる				
	○	○				空気調和方式の種類・特徴を説明できる				
	○	○				空気線図を読み解き、空調負荷について説明することができる				
	○	○				建築計画における省エネ手法を導き出せる				
	○	○				昇降機設備の種類と仕組みを理解する。				
テキスト・教材 参考図書	初学の建築講座 建築設備 第3版									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	建築設備概要(1・1建築設備とは)								
	2	給排水衛生設備 2・1給排水衛生設備とは								
	3	2・2給水設備								
	4	2・3給湯設備								
	5	2・5排水・通気設備								
	6	2・6排水処理設備								
	7	2・7衛生器具設備 2・8消火設備								
	8	空気調和設備 3・1空気調和設備とは 3・2空気調和と室内環境								
	9	3・3空気の状態を知る 3・4空調負荷の考え方								
	10	3・5空気調和方式の種類 3・6熱源・熱搬送設備と機器部材								
	11	3・7換気・排煙設備								
	12	電気設備 4・1電気設備とは								
	13	4・2受変電・幹線設備								
	14	4・5照明・コンセント設備 4・6情報・通信設備搬送設備 5・1・1エレベーター								
15	まとめ					本科目における学習内容を復習しておくこと				
評価方法	定期試験規定にもとづき、試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験		◎	○				95%		
	受講姿勢・出席						○	5%		
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。									

科目名	建築構造力学Ⅲ											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		古賀 俊光			
実施年度	2019年度		実施時期		前期		実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	建築学科 2年											
授業概要	建築構造物が荷重などに対してどのように変形し、構造物にどのような応力が発生するのかを計算できるように基礎知識の習得を目的とする。構造力学Ⅲでは、不静定構造を対象として、応力度・ひずみ度の算定、材料の性質、許容応力度設計の考え方、断面の性質などについて学び、不静定梁のたわみと断面力算定、たわみ角法および固定法による不静定骨組の断面力算定法などについて学ぶ。											
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				断面一次モーメント・図心を算出することができる。						
	○	○				断面二次モーメント・断面係数を算出することができる。						
	○	○				応力度を算出することが出来る。						
	○	○				座屈についての算出することが出来る。						
	○	○				梁の変形についての算出することが出来る。						
テキスト・教材 参考図書	学芸出版社 図説 やさしい構造力学											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	断面の性質(1)断面一次モーメント・図心										
	2	断面の性質(2)断面二次モーメント・断面係数					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	3	応力度(1)軸応力度					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	4	応力度(2)曲げ応力度					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	5	応力度(3)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	6	座屈・確認試験					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	7	梁の変形					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	8	不静定構造とは、剛比の計算					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	9	固定モーメント法(1)材端モーメント・分割モーメント					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	10	確認試験(1)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	11	多層ラーメンの応力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	12	弾性と塑性					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	13	全塑性モーメント、崩壊荷重					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	14	不静定ラーメンの崩壊と保有水平耐力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	15	力学Ⅲの総まとめ					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	○		◎								40%
	小テスト	◎		◎								40%
	宿題・レポート	○		◎								10%
	発表・作品	○		○								10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。											

科目名	建築法規 Ⅲ											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		徳田 美穂子			
実施年度	2019年度		実施時期		前期		実務家教員 担当科目					
対象学科・学年	建築学科2年											
授業概要	より専門的かつ実践的な建築計画に取り組める力を養う。この授業では各制限基準、防火・避難施設、その他の関連法規について学ぶ											
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				建築法規のそれぞれの条文を理解し、説明することができる。						
	○	○				順守すべき具体的な基準・内容を説明することができる。						
	○	○				関連法令と合わせて、建築法規に規定する事項を説明することができる。						
		○		○		実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。						
テキスト・教材 参考図書	・総合資格学院編 建築関係法令集 法令編											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	高さ制限1					建築基準法56条～58条を一読する					
	2	高さ制限2					建築基準法施行令130条の10～135条の4の3					
	3	高さ制限3、日影					建築基準法施行令130条の10～135条の4の3					
	4	内装制限1					建築基準法35条の2を一読する					
	5	内装制限2					建築基準法施行令128条の3の2～128条の4					
	6	防火区画等①					建築基準法施行令112条を一読する					
	7	防火区画等②					建築基準法施行令112条を一読する					
	8	避難施設1(避難施設が必要な建築物)					建築基準法施行令120、121条を一読する					
	9	避難施設2(避難階段と特別避難階段)					建築基準法施行令122、123条を一読する					
	10	避難施設3					建築基準法施行令122、123条を一読する					
	11	その他の法令1(建築士法)					建築士法を一読する					
	12	その他の法令2(建築士法、建設業法)					建設業法を一読する					
	13	その他の法令3(バリアフリー法、耐震改修法)					バリアフリー法、耐震改修法を一読する					
	14	その他の法令4(品確法、長期優良住宅)					品確法、長期優良住宅普及促進法を一読する					
	15	その他の法令5(消防法)					消防法を一読する					
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)出席状況＋受講態度。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験		◎		○						80%	
	小テスト		◎		◎						10%	
	宿題・レポート		○		◎		○				10%	

- 科目名を記入します。学則と相違がないように確認してください。
 - 任意で記入してください。
 - 単位数、時間数、科目を指導する教員の名前を記入してください。単位数・時間数は学則と相違がないように確認してください。
 - 実施される年度、時期(前期・後期・通年)を記入してください。実務家教員の担当科目には「○」を記入してください。
 - 対象となるクラスを記入してください。複数の場合は区切り文字「・」を使用してください。
 - 授業科目の概要を記入してください。(カリキュラム上の位置付け・主な学習項目など)
- 該当する授業形式に○を記入してください。複数の形式を併用する場合は、主たる方法に○、その他に△を記入してください。(職業実践専門課程の科目)
- 授業科目の到達目標を分かりやすく記入してください。DP/CPとの対応関係を到達目標として反映させてください。
- 「言語情報」「知的技能」「運動技能」「態度」の4分類のどの分類に該当する目標なのかを選び、○を記入してください。
- 使用するテキストや参考となる書籍を記入してください。Webページの場合はURLを記入してください。テキストを使用しない場合は、空欄とせず、「なし」を記入してください。
- 授業で取り扱う内容を各回ごとに記入してください。
- 同様のテーマを複数にわたり扱う場合は、「○○○○①」「○○○○②」のように記載するのではなく、
- 例えば、「○○○○① △△△、×××」「○○○○② □□□、◇◇◇」のように、回数ごとに扱うテーマのキーワード等を記入してください。
- 授業の性格上、回ごとに分けることが困難な場合でも、授業内容の大まかな順序が分かるよう、可能な範囲で具体的に記入してください。
- 複数教員で分担して担当する場合は、該当回の担当教員名を括弧書きで記入してください。
- 評価の方法を具体的に記入してください。定期試験については、筆記試験・口述試験・実技試験など実施方法を記入してください。
- 学習目標(到達目標)で選択した分類「言語情報」「知的技能」「運動技能」「態度」に対応させ、◎または○を記入してください。

→ 上記以外で受講生に伝えることがある際には記入してください。

※式4(3)と一致させる)

」と記入してください。

科目名	AutoCAD I									
科目名(英)	AutoCAD practice I									
単位数	4単位			時間数	60時間		担当者	福光 春子		
実施年度	2019年度			実施時期	前期		実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	建学科 2年									
授業概要	AutoCADの基本操作を学び、建築図面の作図方法を理解し、実務において効率的な設計や作図ができるようになる方法とコマンドの使い方を学習する。正しい図面の表記を学びながら作図を実践し、即戦力として活躍できるための技術を身につける。									
授業形式	講義: △			演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○		○		建築設計ツールの一つであるAutoCADの機能について学び、必要な機能を選択し使用することができる。				
		○	○			授業を通じて図面の種類を学び、図面と図面の関係性を立体的に捉え作図することができる。				
	○	○				意匠図の作図を通じて部屋の広さや高さを学び、建物の計画に応用することができる。				
	○	○				構造図面の作図を通じて木造住宅の構造を学ぶと共に、部材の名称を答えることができる。				
		○	○			授業を通して建築図面の作図手順を学び、建築計画時に応用することができる。				
テキスト・教材 参考図書	テキスト:オリジナルプリント 参考図書:超入門 建築製図(市ヶ谷出版)									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1,2	【製図の基本を学ぶ】 AutoCADについて・製図の基礎知識・基本コマンド練習					練習問題を繰り返し練習			
	3,4	【製図の基本を学ぶ】 製図の基礎知識・基本コマンド練習					練習問題を繰り返し練習			
	5,6	【製図の基本を学ぶ】 製図の基礎知識・基本コマンド練習					練習問題を繰り返し練習			
	7,8	【製図の基本を学ぶ】 製図の基礎知識・基本コマンド練習					練習問題を繰り返し練習			
	9,10	【木造住宅意匠図】 配置図兼1階平面図					授業内容の復習			
	10,11	【木造住宅意匠図】 配置図兼1階平面図					授業内容の復習			
	12,13	【木造住宅意匠図】 配置図兼1階平面図					授業内容の復習 データ提出			
	15,16	【木造住宅意匠図】 2階平面図					授業内容の復習			
	17,18	【木造住宅意匠図】 2階平面図・屋根伏図					授業内容の復習 データ提出			
	19,20	【木造住宅意匠図】 断面図					授業内容の復習			
	21,22	【木造住宅意匠図】 断面図					授業内容の復習 データ提出			
	23,24	【木造住宅意匠図】 立面図					授業内容の復習			
	25,26	【木造住宅意匠図】 立面図					授業内容の復習 データ提出			
	27,28	【木造住宅構造図】 基礎伏図					授業内容の復習			
	29,30	【木造住宅構造図】 基礎伏図					授業内容の復習 データ提出			
評価方法	(1) 練習問題を数回実施する。(2) 授業課題の提出を求める。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	練習問題	○	○				10%			
	課題提出状況				◎		30%			
	習熟度(スピードと正確さ)	◎	◎				50%			
	出席率				○		5%			
	授業態度				○		5%			
履修上の注意	出席が10回に満たない場合、提出課題が未提出の場合は履修単位を与えない。									

科目名	Photoshop Illustrator I											
科目名(英)	Photoshop Illustrator I											
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		松本剛太		
実施年度	2019年度			実施時期		前期		実務家教員 担当科目		○		
対象学科・学年	建築学科 2年											
授業概要	Photoshopの基本操作と、業界における重点を学ぶ それら基礎知識の浸透が目的											
授業形式	講義: ○			演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				Photoshopの役割を理解する						
	○	○				Photoshopによる画像補正 修正処理ができる						
	○	○				画像の基礎知識を理解している						
	○	○				Illustratorとの連携を意識した処理ができる						
テキスト・教材 参考図書	情報リテラシー Office2016											
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示				
	1	IllustratorとPhotoshopの基本 ベクトルとラスターの理解						Photoshopのインストール				
	2	レイヤー操作と色調補正										
	3	選択範囲について 各種選択ツールの解説と用途										
	4	色の設定とペイント操作 色の設定 グラデーション										
	5	レイヤーマスクを使う 概要と設定方法 利用シーン										
	6	文字、パス、シェイプ 文字入力と編集 Illustratorとの違い										
	7	画像の修正と加工 ゴミや不要物を消す 変形										
	8	フィルターとレイヤースタイル フィルターとレイヤースタイル の違い										
	9	レイヤースタイルの利用シーンと意味										
	10	PhotoshopとIllustratorの連携 画像の配置とその機能特性										
	11	Photoshop練習問題1 練習問題の解説										
	12	Photoshop練習問題2 練習問題の解答										
	13	Photoshop練習問題 回答と解説										
	14	Photoshop練習問題3 解説なしでの独力解答										
	15	Photoshop練習問題3 解答と解説										
評価方法	習問題を小テストとして評価 3種実施、その提出により評価 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	小テスト	◎		○								100%
履修上の注意												

科目名	就職実務ⅡA									
科目名(英)	Employment practicesⅡA									
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		各担任
実施年度	2019年度			実施時期		前期		実務家教員 担当科目		○
対象学科・学年	建築学科 2年									
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 就職活動における作品集作成や履歴書記入方法など、社会人になる上でのスキルを身につける。									
授業形式	講義： ○			演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標				
	○					就職活動における企業研究が行うことができる				
	○					自己分析を行うことができる				
	○					作品集を作成し就職活動ができる				
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	履歴書の書き方								
	2	受験企業の研究し求人を探しリストアップ								
	3	自己分析作成と作品集ブラッシュアップ								
	4	志望理由チェックと作品集ブラッシュアップ								
	5	就職活動スケジュールを制作								
	6	就職活動状況の共有								
	7	ポートフォリオのブラッシュアップ								
	8	対象企業を意識した面接練習								
	9	対象企業を意識した面接練習(グループディスカッション)								
	10	受験企業の研究し求人を探しリストアップ								
	11	自己分析や志望理由チェック								
	12	就職活動状況の共有								
	13	求人情報の集め方や、管理の仕方								
	14	対象企業を意識した面接練習								
	15	就職活動スケジュールを制作								
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	出席状況				◎		60%			
	受講態度・意欲	○	○				30%			
	課題の提出	○	○				10%			
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする									

科目名	検定対策ゼミⅠ（2級建築施工管理技士資格試験）											
科目名(英)												
単位数	4単位				時間数		60時間		担当者		集路 正巳	
実施年度	2019年度				実施時期		前期		実務家教員 担当科目		○	
対象学科・学年	建築系全学科 2年											
授業概要	2施工・学科試験合格を視野に、問題読解に必要な知識を要点を絞り込んで身につけていきます。 また、理解度確認のため小テスト、模擬テストを複数回、実施し実力をつけていきます。											
授業形式	講義：△			演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				建築施工に関する専門用語の意味を正しく説明できる。						
	○	○				小テストの平均正解率60%以上を獲得できる。						
	○	○				模擬テストの平均正解率60%以上を獲得できる。						
テキスト・教材 参考図書	① 2級建築施工管理技士要点テキスト(2019年度版)市ヶ谷出版社 ② 2級建築施工管理技士即戦問題集(2019年度版)市ヶ谷出版社											
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示			
	1	1章 建築学 01 環境工学 ※以下、授業にて毎回確認テストを実施							・テキストの該当範囲を事前に読んでおくこと ・授業内容に係る複数回、小テスト・模擬テストを実施するので、復習しておくこと			
	2	02 構造力学										
	3	03 一般構造										
	4	04 建築材料										
	5	2章 共通 05 舗装・植栽工事										
	6	06 建築設備										
	7	07 設計図書・測量										
	8	3章 建築法規 08 建築基準法										
	9	09 建設業法										
	10	10 労働基準法										
	11	11 労働安全衛生法										
	12	12 環境保全関係法、その他										
	13	4章 施工管理法13 施工計画										
	14	14 工程管理										
	15	15 品質管理										
	16	16 安全管理										
	17	5章 建築施工 17 地盤調査										
	18	18 仮設工事										
	19	19 地業										
	20	20 土工事										
	21	21 鉄筋コンクリート工事										
	22	22 特殊コンクリート工事										
	23	23 鉄骨工事										
	24	24 木工事										
	25	25 防水工事、石工事										
	26	26 タイル工事、屋根工事										
	27	27 金属工事、左官工事										
	28	28 建具工事、塗装工事										
	29	29 内外装工事、建設機械										
	30	総まとめ										
評価方法	(1)授業の中で小テストを基本毎回、複数回確認テスト(模擬テスト)を実施する。 (2)出席状況、受講態度を評価に加味する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	出席状況・受講態度	○		○								30%
	小テスト、模擬テスト	○		○								70%
履修上の注意	出席が総コマ数の2/3に満たない場合には、単位を与えない。また、ゼミ受講に対する意欲が感じられないと判断した場合は、ゼミへの出席停止を指示する事がある。											

科目名	専攻ゼミⅠ（リフォーム）						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	徳田 美穂子
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目	○
対象学科・学年	建築学科2年						
授業概要	近年、建築業界において既存の建築物を新たな形へとリフォームする事例が多くなっている。リフォームは既存の構造の中で、もしくは構造を新たな形に組み替え設計を行う必要性がある。つまりは建物の構造を理解しておかないとリフォーム設計はできないこととなる。この授業では実際のRC造のマンションのリフォーム設計を行いリフォームについて学んでいく。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				リフォーム全体の概要説明ができる	
	○					RC造の構造について分析することが出来る	
		○				RC造のリフォーム設計計画ができる	
		○	○			設計プランのプレゼンテーションが出来る	
テキスト・教材 参考図書	特にない。適宜プリントして配付する。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ガイダンス 課題の説明(木軸塔制作) グループの発表				各自、資料集めを実施	
	2	役割分担 コンセプト作成 エスキース制作				エスキースの作成を行うこと	
	3	エスキース完成 模型製作開始				エスキースの作成を行うこと	
	4	模型作成				プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	5	模型作成				プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	6	模型作成				プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	7	プレゼンテーション資料作成				プレゼンテーションの構成のシュミレーションをする事	
	8	プレゼンテーション、講評				プレゼンテーションの構成のシュミレーションをする事	
	9	ガイダンス 課題の説明(RC造)				この課題の振返りをしておくこと	
	10	課題分析・資料集め				各自、資料集めを実施	
	11	エスキース(構造の確認・コンセプト設定)				エスキースの作成を行うこと	
	12	エスキース(ラフ図面)				エスキースの作成を行うこと	
	13	エスキース(ラフ図面) ラフ図面提出コンセプトの教員確認				エスキースの作成を行うこと	
	14	6回目を受けてのラフ図面・コンセプトの修正				エスキースの作成を行うこと	
	15	図面作成 タイトル・コンセプト				エスキースの作成を行うこと	
	16	図面作成 平面図				プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	17	図面作成 内観パース 構図検討				プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	18	図面作成 内観パース① 下書き				プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	19	図面作成 内観パース① ペン入れ				プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	20	図面作成 内観パース① 着色				プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	21	模型作成 部材枠取り				プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	22	模型作成 部材切抜				プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	23	模型作成 部材組合せ				プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	24	模型作成 細部作成				プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	25	模型作成 部分修正				プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	26	模型作成 仕上げ				プレゼンテーションの構成を考えておくこと	
	27	プレゼンテーションデータ作成				プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと	
	28	課題発表シュミレーション				プレゼンテーションのシュミレーションを行っておくこと	
	29	発表と講評				この課題の振返りをしておくこと	
	30	発表と講評②				この課題の振返りをしておくこと	
評価方法	(1)作品の提出状況および作品内容 (2)制作発表 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題調査(把握)	○					10%
	課題内容		○				60%
	発表		○				30%
履修上の注意							
	出席率60% 未満者 単位付与しない。						

科目名	建築設計製図Ⅲ							
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING Ⅲ							
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	古賀 俊光	
実施年度	2019年度		実施時期	前期		実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	建築学科 2年							
授業概要	建物の概要は設計図で表現される。そのため設計図を正しく読み取る力および正確に表現することが求められる。本授業では、1年時に習得した製図技術をより深めるため、あらゆる構造の建築物の図面作成に挑戦し表現力・手法・図面内容の理解を目指す。2級建築士の2次試験(製図)の対策としても位置付ける。							
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
		○	○			製図の基本に則して実際の建築物を図面化することができる。		
		○	○			製図の基本に則して鉄骨造の建築物の配置図及び平面図を作図することができる。		
		○	○			製図の基本に則して鉄骨造の建築物の断面図及び立面図を作図することができる。		
		○	○			製図の基本に則して鉄骨造の建築物の矩計図を作図することができる。		
		○	○			2級建築士の2次試験である設計製図の作図をすることが出来る。		
テキスト・教材 参考図書	彰国社 定番建築製図入門							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	(7号館) 配置図				締切を確認し計画的に進めてください。		
	2	(7号館) 5階平面図				締切を確認し計画的に進めてください。		
	3	(7号館) 立面図				締切を確認し計画的に進めてください。		
	4	(7号館) 立面図2				締切を確認し計画的に進めてください。		
	5	(7号館) 断面図				締切を確認し計画的に進めてください。		
	6	(7号館) 断面図2				締切を確認し計画的に進めてください。		
	7	(鉄骨造2階建て)配置図兼平面図の作成				締切を確認し計画的に進めてください。 定番建築製図入門を準備する事		
	8	(鉄骨造2階建て)平面図および南立面図の作成				締切を確認し計画的に進めてください。 定番建築製図入門を準備する事		
	9	(鉄骨造2階建て)東立面図およびA-A'断面図の作成				締切を確認し計画的に進めてください。 定番建築製図入門を準備する事		
	10	(鉄骨造2階建て)矩計図の作成				締切を確認し計画的に進めてください。 定番建築製図入門を準備する事		
	11	(2級建築士対策)木造2階建て 平面図				締切を確認し計画的に進めてください。		
	12	(2級建築士対策)木造2階建て 立面図・床伏図				締切を確認し計画的に進めてください。		
	13	(2級建築士対策)木造2階建て 矩計図				締切を確認し計画的に進めてください。		
	14	(2級建築士対策)RC造 平面図				締切を確認し計画的に進めてください。		
	15	(2級建築士対策)RC造 立面図・断面図				締切を確認し計画的に進めてください。		
評価方法	(1)課題の提出内容 (2)課題の提出枚数(締切後は受け取りません) ※成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	課題評価		◎	○			60%	
	提出枚数		◎	○			40%	
履修上の注意	①提出図面枚数が全体の枚数に対して7割に満たない場合 ②出席回数が授業回数の2／3に満たない場合 ①もしくは②にどちらかに該当する場合は単位を与えない ※参考(提出枚数について): S評価:すべての課題を提出 A評価:提出枚数が全体の9割以上 B評価:提出枚数が全体の8割以上 C評価:提出枚数が全体の7割以上 D評価:提出図面枚数が全体の枚数に対して7割に満たない ※提出枚数の評価に加え、図面の仕上がり具合により評価は上下します。							

科目名	BIM専攻ⅡA(選択)											
科目名(英)	Building Information Modeling ⅢA											
単位数	1単位		時間数		15時間		担当者		道脇 力			
実施年度	2019年度		実施時期		前期		実務家教員 担当科目		○			
対象学科・学年	建築系2年共通											
授業概要	・ARCHICADのチームワーク操作の習得。 ・課題の制作を通じた実践的な表現技術の習得。											
授業形式	講義:		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
				○		チームワーク機能を効果的に活用してモデリングを行うことができる。						
	○	○				課題に必要な情報収集を行うことができる。						
		○	○			ゾーンツールを使ってボリュームスタディができる。						
テキスト・教材 参考図書	木造住宅入力ガイド(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	チームワークの概要、モデル入力「木造軸組①」					テキストを見て予習を行うこと					
	2	モデル入力「木造軸組②」データチェック					前回の復習を行うこと					
	3	課題:複合ビル「情報収集」					情報、資料収集を行うこと					
	4	課題:複合ビル「エスキス①」					情報、資料収集を行うこと					
	5	課題:複合ビル「エスキス②」					情報、資料収集を行うこと					
	6	課題:複合ビル「エスキス③」					情報、資料収集を行うこと					
	7	課題:複合ビル「制作①」					情報、資料収集を行うこと					
	8	課題:複合ビル「制作②」					情報、資料収集を行うこと					
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	14											
	15											
評価方法	(1)出席状況 (2)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	発表・作品			◎				○				50%
	課題提出			◎				○				50%
履修上の注意	出席が60%に満たない場合は、単位を認めない。											